



がん治療と仕事を 両立するためのチェックリスト

がんと診断されてから治療開始まで

- ☑ 担当医に病状や治療の内容とスケジュール(治療計画)をよく確認する。
- ☑ 担当医の説明をふまえて、担当医や医療スタッフに治療と仕事の両立を望むことを伝える。
- ☑ 担当医や医療スタッフに、自分の職場や仕事に関する情報^{※1}を伝える。
- ☑ 職場の就業規則の内容を確認し、休職・休暇などの制度を把握する。
- ☑ 診療のこと以外でも、治療費や療養生活、治療と仕事の両立に関する疑問や悩み、不安がある場合は、がん相談支援センター等に相談する。^{※2}
- ☑ 職場の上司や人事担当者に、病状や治療計画を説明し、働き続けたいことを伝える。
- ☑ 必要に応じて担当医に診断書の作成を依頼し、職場に提出する。



治療開始から職場復帰まで

- ☑ 担当医に病状、治療計画および職場復帰に向けた注意点を確認する。
- ☑ 職場復帰に関する不安や疑問は、担当医やがん相談支援センター等に相談する。^{※2}
- ☑ 必要に応じて担当医に診断書^{※3}の作成を依頼し、職場に提出する。
- ☑ 職場の上司や人事担当者に病状や今後の治療計画を伝える。
- ☑ 職場の上司や人事担当者に就労が可能であることを伝え、就労上の制限や配慮など復帰に向けて必要なことを相談する。



職場に復帰した後(通院治療中を含む)

- ☑ 病状および就労上の制限や配慮などについて、職場の理解と協力が得られるように努める。
- ☑ 服薬や療養上の注意点について担当医の指示に従い、定期的に診療を受ける。
- ☑ 治療の節目には、担当医に病状や今後の治療計画についてよく確認する。
- ☑ 病状の変化に応じて、就労上の制限や配慮すべきことも変わっていくため、職場と医療機関の情報のやりとりに積極的に取り組む。(必要に応じて診断書^{※3}を提出する。)
- ☑ 担当医に相談して、できる限り仕事に影響が少ない通院日時を確保する。
- ☑ 病状の変化を感じた場合は、職場に報告するとともに、速やかに受診する。



※1 担当医や医療スタッフに伝えることが望ましい情報

・採用の身分(正職員、派遣職員、アルバイト等) ・職種(事務職、専門職・技術職、営業職等) ・職場への通勤状況(距離、手段、時間)

・時間外勤務の頻度、時間 ・業種(農業、建設業、サービス業等) ・役職、職位 ・就労時間、就労日数 ・休職、休暇制度

※2 就労等に関する主な相談内容

・職場への病状の伝え方 ・休職のしかたや休職中の健康保険給付について ・治療と仕事の両立に関する悩みや不安 ・職場復帰に向けての職場への対応について

※3 担当医に確認すべき(診断書の中に盛り込むことを求める)情報

・現時点での「就労」の可否や「就労可能」となる時期 ・治療により生じる可能性のある副作用や障害 ・治療計画 ・就労上の制限や配慮

(出典)愛知県がんサポートブック

「がん」に関する情報はこちらから

聞きたい

がん相談支援センター

がん相談支援センターは、全国のがん診療連携拠点病院などに設置されているがんに関する相談窓口です。診断から治療、療養生活全般にわたってがんに関するさまざまなご相談をお受けしています。不安な時、困った時は「がん相談支援センター」をご利用ください。

- がんについて「知りたい」とき
- がんの治療について「理解して納得したい」とき
- 自分の考えを「伝えたい」とき
- 療養生活のことについて「聞いてみたい」とき
- 心の悩みを「誰かに聞いてほしい」とき
- 生活や経済的なことで「心配がある」とき
- 「家族のことも相談してみたい」とき

病院、または、がん相談支援センターをお探しの場合は、こちらから

<https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>

電話でもご案内いたします。

「がん情報サービスサポートセンター」

電話：0570-02-3410 (ナビダイヤル)
03-6706-7797

受付時間：平日10時～15時（土日・祝日、年末年始を除く）

※電話番号は、おかけ間違いのないようご注意ください。

※通信料は発信者のご負担です。



知りたい

がん情報サービス

がん情報サービスは、国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイトです。がんについて、がんとの向き合い方、診断・治療方法、緩和ケアについて、病院検索など、さまざまな情報を調べることができる“がん情報の入り口”です。

<https://ganjoho.jp>

がん情報

検索



国立研究開発法人
国立がん研究センター
National Cancer Center Japan

JA共済

(2018年1月)